

# だいすぎ c 台杉

台杉とは、一本杉の植林技術が発達する以前、より多くの杉材を産出する目的で考え出された技法で、主幹を切断すると脇から多くの幹が立上がる。次々と新芽が出て、再び杉材が生産できる技法だ。実生苗を植林する方法が盛んになると消滅した。

京都府の片波川源流域と井の口山、芦生原生林に台杉が放置され、巨大化した巨木が多く残されている。これらの群生地では、立条という形態で幹から発芽した分岐幹が多く見られる。片波川源流域に奇麗に切断された古株があり、年輪が見える。この地域では年輪幅がかなり広く、標高が低い事と、南に位置する事が成長速度が速いと推測される。そのため、かなり巨大に成長している大杉でも、言われている程の樹齢がない事も判ってきた。又、尾根筋には、伏せた細い幹から伏条によって多数に叢生するスギがよく見られ、これが巨大化すると「井の口山の伏条台杉」の樹形になり、各地の分岐杉のルーツが見えてくる。地方品種の可能性もある。



## あしうげんせいりん c-1 芦生原生林の台杉 京都府南丹市美山町芦生

約4,000haという広大な京都大学芦生演習林は、一般に芦生原生林と呼ばれて、都市に近い原生林として有名な存在である。ところが、広大な山林にはほとんど道がなく、林道以外には立入りに許可が必要な事もある。山道沿いにあるカツラやトチノキを紹介するWebサイトはあるが、道の無い原生林内にある巨木の実態が判っていなかった。そこで、2014年8月に実態調査を行なった。

その結果、台杉の群生を確認し、立山の美女平に多い、古株更新による天然杉の巨木である可能性が高い事が判明した。しかし、人の手による台杉の放置された巨木と、古株更新による天然杉の巨木の違いを判断する事はできなかった。よって、台杉の巨木として分類する事にした。



写真 D-004  
じょうもんどきすぎ  
縄文土器杉

尾根から少し下った急な斜面に立つ。根元に古株が見られ、古株更新による樹形である事が判るが、美女平で見られる同じ樹形のものより、はるかに上部が大きくなっている。芦生のスギの特徴の一つで、このような現象がなぜ起るのかを合理的に説明できない。

## ■ 芦生原生林の台杉

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	芦生原生林の大杉 写真 D-001	M9.14m(1.3m 2014)	40m	京都府南丹市美山町芦生	
A	芦生 森の神 写真 D-002	M9.75m(1.3m 2014)	35m	”	
B	芦生 原生杉 写真 D-003	M10.33m(1.3m 2014)	30m	”	
B	縄文土器杉 写真 D-004	M7.00m(1.3m 2014)	30m	”	
B	芦生 弥生杉 写真 D-005	M8.25m(1.3m 2014)	30m	”	
C	雷杉 写真 D-006	M4.65m(1.3m 2014)	18m	”	

## ■ 片波川源流域の台杉

2015年現在

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	谷守杉 写真 D-007	M10.9m(1.3m 2013)	30m	京都府京都市右京区京北上黒田	
B	平安杉 写真 D-008	株周 M13.4m(0.5m 2008)	23m	”	
B	盤取杉 写真 D-009	不明	不明	”	
B	大主杉 写真 D-010	M8.6m(1.3m 2013)	不明	”	
B	大やぐら杉 写真 D-011	M9.5m(分岐 0.5m 2008)	20m	”	
B	兜杉 写真 D-012	M10.5m(1.3m 2013)	不明	”	
C	三尊杉 写真 D-013	不明	不明	”	

## ■ 井の口山の台杉

評価 AA 国指定特別天然記念物級 A 国指定天然記念物級 B 都道府県指定天然記念物級 C 市町村指定天然記念物級

評価	巨木名称	幹周	樹高	所在地	天然記念物指定
A	井の口山の伏条台杉 写真 D-014	株周 M15.2m(0.3m 2007)	25m	京都府京都市左京区花背井の口山	
C	井の口山の千手杉 写真 D-015	不明	不明	”	

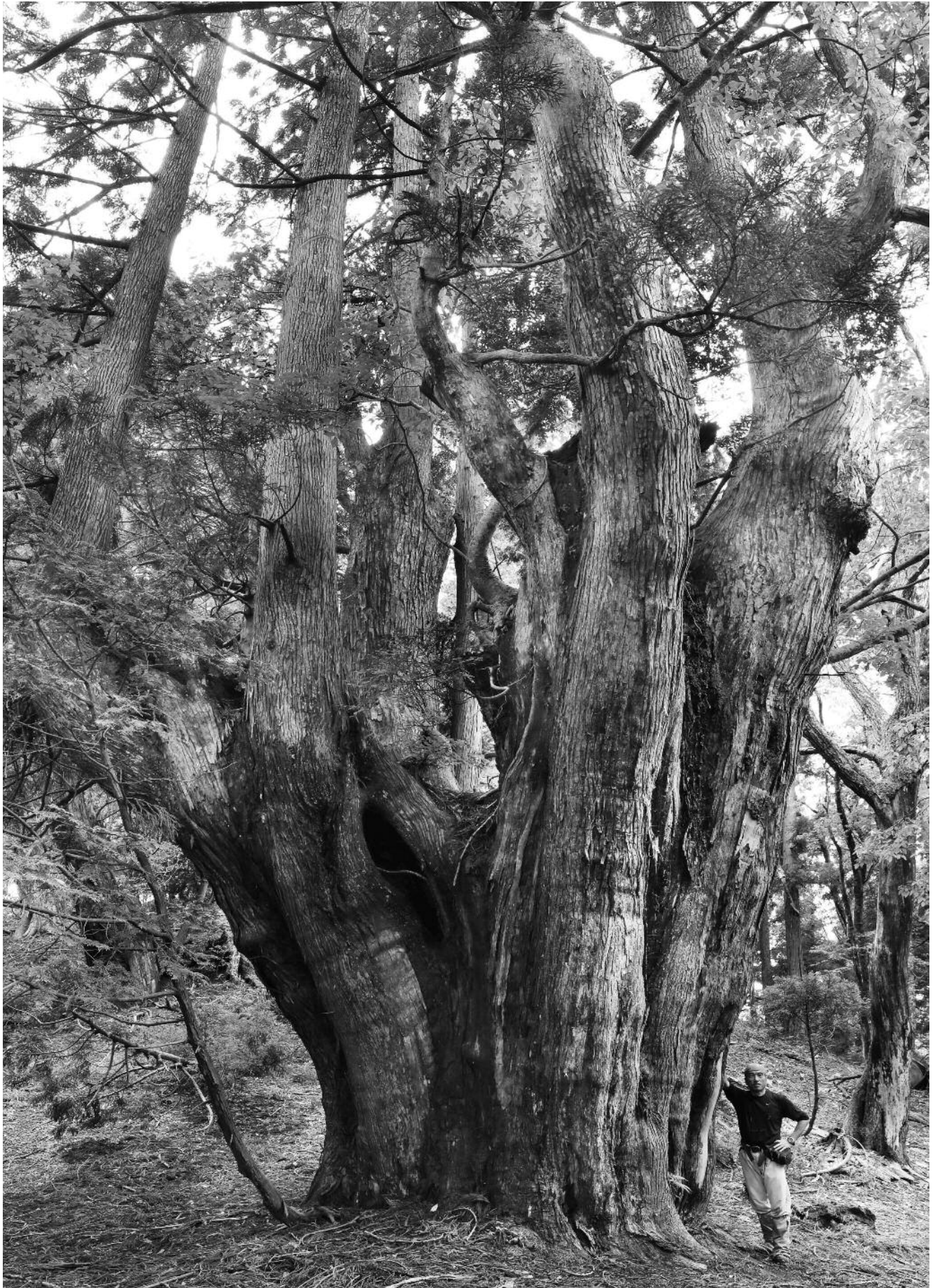


写真 D-001 あしうげんせいりん おおすぎ 芦生原生林の大杉

原生林内、尾根の窪地に立つ。地上4mで大小5分岐する樹形で、先端は一本杉。空洞から内部を覗くと、古株の痕跡があり、古株更新による樹形と判断した。主幹と見える部分は、根の巨大化したもので、古株が朽ちた内部を覗くと、根の雰囲気がよく見える。大きく広がり、幹周の倍程の迫力がある。



写真 D-002 <sup>あしう もり</sup> 芦生 <sup>かみ</sup> 森の神

大杉から下った尾根の窪地端に立つ。地上4~5mで3分岐、主幹山側には崩れた古株が残っていて、これに広葉樹も着生して巨大化している。大きく広がる樹形で、幹周12~14mの大きさに感ずる。幹が大きくくねり、神秘的な樹形で、森の神としての存在感がある。



写真 D-003 あしう げんせいすぎ 芦生 原生杉

芦生原生林では最も幹周が大きいスギ。地上3~4mで4分岐し、背後の一本は破損する。森の神近くの尾根台地に立つ。背後には古株が残り、古株更新による樹形。これだけ大きくなると、もともと一本の伏条スギから成長したものか、複数のスギの癒着なのか判断できない。